

# 災害は

# 他人事ではない

東日本大震災の記憶も徐々に薄れつつありますが、災害は忘れたころにやってきます。

この地域は、南海トラフの巨大地震、スーパー伊勢湾台風等の災害の発生が懸念されています。

南海トラフの巨大地震では、内閣府の予測(最大ケース)によると、死者・行方不明者数が東日本大震災の17倍、建物被害では18倍と想定されています。

市の震度は6強で、大きな揺れと液状化により、道路等が隆起したり沈降したりしてインフラが破壊され、市民生活が長期間にわたり麻痺します。

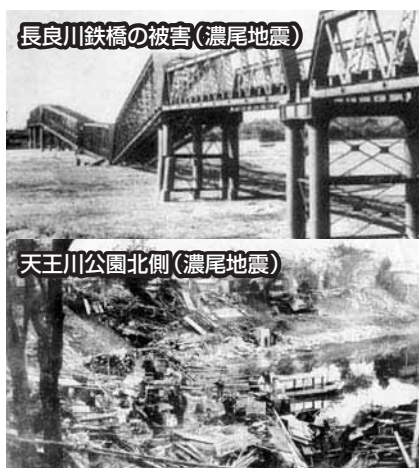
津波の影響は少ないですが、液状化によって堤防等に甚大な被害が生じた場合には、浸水被害の発生も考えられます。

また、最近では地球温暖化等による環境の変化に伴い、巨大台風が頻発しており、暴風と局地的な大雨、高潮により、伊勢湾台風を超える被害も予想されます。

## 濃尾地震と伊勢湾台風

ここで、市が経験した過去の大災害を2つ振り返ってみましょう。

濃尾地震は、122年前(明治24年10月28日)に発生した内陸型としては日本最大の地震です。市でも、死者が68人、全壊戸数が934戸。液状化で泥砂が噴き続けました。建物が倒壊して、多くの人の命を奪いました。地震は、建物の耐震化が必要であることを物語っています。



伊勢湾台風は、54年前(昭和34年9月26日)の夜中に、この地域を襲いました。市では、伊勢湾岸から水が押し寄せ、特に日光川より西側の地域で一面が浸水しました。市は大半が海抜ゼロメートル地帯であるため、自然に水が引くことはありません。懸命な復旧作業にも

かわならず、一部の地域では2カ月も浸水が続き、市民生活に大きな影響を与えました。ただ、この浸水では亡くなった人はありません。



津島駅の浸水被害(伊勢湾台風)

このような災害が発生してからでは手遅れです。被害を最小限に抑えるためには、災害が発生する前の平常時に少しでも減災につながる備えが重要です。

市では、防災・減災に取り組むため、今年度から名古屋大学減災連携研究センターへ職員を派遣し、センターの協力を得ながら、地域防災計画の見直し等を進めています。

昨年10月には、海部地域の7市町村で、防災・減災に取り組むべき課題について勉強会を発足させました。

また、災害時に必要となる水道水の確保のため、配水場から災害拠点病院や1次避難所までの管路を耐震性が高い管に入れ替えています。

市は、災害が発生する前にできるだけ多くの対策を考え、行動に移していきます。

市民の皆様にも、防災・減災により一層の関心を持ち、いつ起こるかもしれない災害に備えていただくようお願いいたします。日頃から防災について考えて備えを強化し、災害時には、まず自分の身を守り、家族、地域住民を「助ける側」に立っていただけるよう願っています。

## 住んでいる地域を知ろう

「津島市地震・洪水ハザードマップ」が全世帯に配布してあります。最悪の場合を想定したのですが、地域の特長や危険度を日頃から、家庭や職場で確認しておいてください。(マップは、ホームページからダウンロードできます。)

## 家具の「転倒防止」と住宅の「耐震化」

阪神・淡路大震災や新潟県中越地震などでは、多くの人が、倒壊した家や倒れてきた家具の下敷きになって、亡くなったり、大けがをしました。

テレビやタンスなどの家具などは固定しないと倒れてきます。「転倒防止」は、家族で協力すればできることです。今すぐによっておくことが一人ひとりの大切な「いのちを守る」ことにつながります。

また、昭和56年5月31日以前に建築された建物は、耐震性が十分でない恐れがあります。このため、市が実施している無料耐震診断を受けていただき、「倒壊の可能性がある」と診断された場合には、大切な家族の命を守るため、建て替えや耐震改修を検討してください。

先行開設避難所	1次避難所(先行開設以外)
東小学校 西小学校 南小学校 北小学校 蛭間小学校 神守小学校 高台寺小学校 神島田小学校	藤浪中学校、中央児童館、看護専門学校、新開保育園、児童科学館、総合保健福祉センター、西地域防災コミュニティセンター、中央児童館、老人福祉センター、大崎会館、天王中学校、南文化センター、共存園保育所、文化会館、神守公民館、神守中学校、生涯学習センター、錬成館、暁中学校、神島田公民館、神島田保育園

※災害の規模、状況によって開設しない避難所があります。

**備蓄と非常持ち出し品**

いざという時に備えて、7日分の水や食糧を備蓄しておきましょう。

避難するときに持ち出すものと考えて、事前に準備したり、持病の薬や粉ミルクなどが必要な人は、用意をしておきましょう。ホームページにチェックリストが掲載してあります。

**避難方法を考えておこう**

日頃から、大災害のとき、どこに避難するか、どこに集合するか、連絡方法はどうかなどを確認しておきましょう。なお、夜間の避難は大変危険ですので、災害の発生が予想されるときは、明らいつちに自主避難しましょう。

**防災を学ぼう**

市では、毎年9月に、防災リーダー養成講座を開いています。減災につながる



防災訓練(神島田地区)

**近所の人と協力しよう**

市では、8小学校に先行避難所を開設します。これを含めて1次避難所として29施設を用意しています。また、これら1次避難所に対応できない場合に備えて、2次避難所として11施設を指定しています。

「自分たちのまちは自分たちで守ろう」と、小学校区ごとに自主防災会が組織されています。地域の人々が力を合わせ、一体となって活動すれば、災害時には大きな力を発揮します。学区や町内で行われる防災訓練に積極的に参加し、災害が起こったらどうするかを話し合い、災害に強い地域をつくりましょう。

**家族や知人との連絡方法**

日頃から、家族防災会議を開いて、災害に備えましょう。

**◎家族防災会議のテーマ例**

- ・ 家の中で一番安全な場所
- ・ 避難方法、避難場所と経路
- ・ 学校等の子どもの引き取り方法
- ・ 家族の集合場所
- ・ 家族、知人の安全確認の方法
- ・ 備蓄品
- ・ 非常持ち出し品

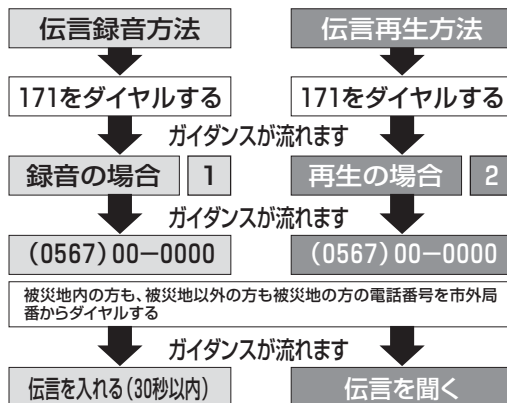
特に、家族や知人等と連絡が取れないと不安になります。災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板の使用方法を覚えておきましょう。皆さんで一度試しておくと、いざというときにすぐに使うことができます。毎月1日と15日、9月の防災週間、1月の防災とボランティア週間に体験利用ができます。



防災リーダー養成講座

プログラムを用意しています。積極的に防災に取り組んでいただける方の参加をお待ちしています。なお、市のホームページにも防災に関するさまざまな情報を載せています。

**災害用伝言ダイヤル171**



**災害情報の入手方法を確認しよう**

市では、「防災ほっとメール」で最新の情報をお伝えしています。携帯電話をお持ちの方は、すぐに登録してください。



お使いの携帯電話の機種がQRコード読み取りに対応している場合は、上のQRコードを読み込むことによって簡単にアドレス入りのメールを作成することができます。

また、ホームページ、クローバーテレビ、FMななみ(周波数77.3MHz)を是非聴いてみてください。等でも市の災害関連情報をお伝えします。

問合せ 地域安全課防災G

内線23322